

# 病院と地域をむすぶ



# パイプライン



2018年 **2月号**

発行：2018.2.9 総合病院 南生協病院

月	一日外来患者数：864.9人	一日入院患者数：287.4人
	ベッド稼働率：91.8%	救急車：275台 手術数：107件

## 新しい機器の導入と子宮癌検診のおすすめ

一般的に子宮がん検診というと子宮頸がん検診のことを指します。全世代を通じて女性のがん死亡原因の1位は乳癌ですが、20代、30代の若い女性の1位は子宮頸癌です。

しかも年々増加しています。ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が関与しており、高齢になるほど多くなる他のがんと違って、性活動が活発な若い世代で感染の機会が増えているためと考えられています。



(写真はサージトロン)

初期がんでは自覚症状がなく、症状が現れたころには進行がんになっていることも少なくありません。これから妊娠・出産をむかえる若い世代に急激に増加していることは深刻な問題になっています。

子宮頸がん検診は非常に有効で、進行がんを防ぎ死亡を減らす効果が証明されています。初期がんで見つければ、病変のみを取り除く手術（円錐切除術）で子宮を残すことができ、治療後も妊娠できる可能性があります。当院も、検診を積極的にお勧めするとともに、精密検査（組織診）・治療が必要な場合の機材（コルポスコープ、高周波メス：サージトロン）も昨年新しく購入して診療を行っています。これまで以上に子宮癌治療に安心して良質な医療を提供していきたいと思っています。

産婦人科医師 加藤智子

(ご報告：今年度は、子宮癌検診で癌5件発見しました)

## 3月1日より「入院セット」提供開始します。 日額385円

入院セットの提供

- ・パジャマ、ねまき
- ・タオル
- (以上基本セット)

- ・はし、スプーン
- ・髭剃り
- ・タオル・その他日用品が必要数利用できます。



これで、手ぶら入院もできます。

# 地域包括ケアで柔軟な対応ができました

## 「地域包括ケア準備病棟を利用しての感想をいただきました」

I様は12月23日に転倒後の腰痛で救急外来へ受診し、南生協病院に入院されました。ご本人様は認知症があり、在宅での生活に向けての計画を患者様のご家族様と相談しました。

急性期病院での入院期間は2週間が目安。退院先を考えなければいけませんが、回復期病院にいくと環境がかわってしまって認知症の症状がすすんでしまうのではないかな…とご家族は心配していました。また、直接住み慣れたサービス付き高齢者向け住宅に帰り、小規模多機能ホームのお泊まりを利用しての生活を選択するには、まだ十分な回復ができていないと思えず、すぐに帰るのは難しい…。現在、6B病棟が地域包括ケア病棟として利用できるとご案内したところ、環境をできるだけ変えずに治療を引き続きしたいと6B病棟での入院生活を決めました。

退院後、ご家族様より、「リハビリをずっと同じ方に担当していただけて、母も安心してしっかりと続けることができ、退院後の生活をどのようにしていくかを相談員の方等とお話しながら決めていくことができました。1月22日に退院し、元々いたサービス付き高齢者向け住宅へ戻ることとなりましたが、在宅での生活に向けて準備ができてよかったです。」と感想をいただくことができました。病院から在宅へ安心して帰ることができるよう、引き続き支援をしていきます。

地域包括ケア病棟プロジェクト

## 医療活動フォーラムを開催しています（南生協病院の医療活動を見に来て下さい）

日時 2018年2月8日（木）～10日（土） 9：00～20：00（土曜日は13:00まで）

場所 健診・ドックセンター3階会議室B・C

活動報告のポスター展示・DVD上映・紙芝居などの展示を予定しています。展示は、上記の時間帯は、どなたでも自由にご覧いただけますぜひ、ご参加ください。

※2月9日（金）16：00～は、ポスター発表（口演） 16：30～研修医ポートフォリオ発表会



読んでためになる  
驚きもいっぱい。

3階の大きな会議室におもしろい報告がいっぱいありますよ！